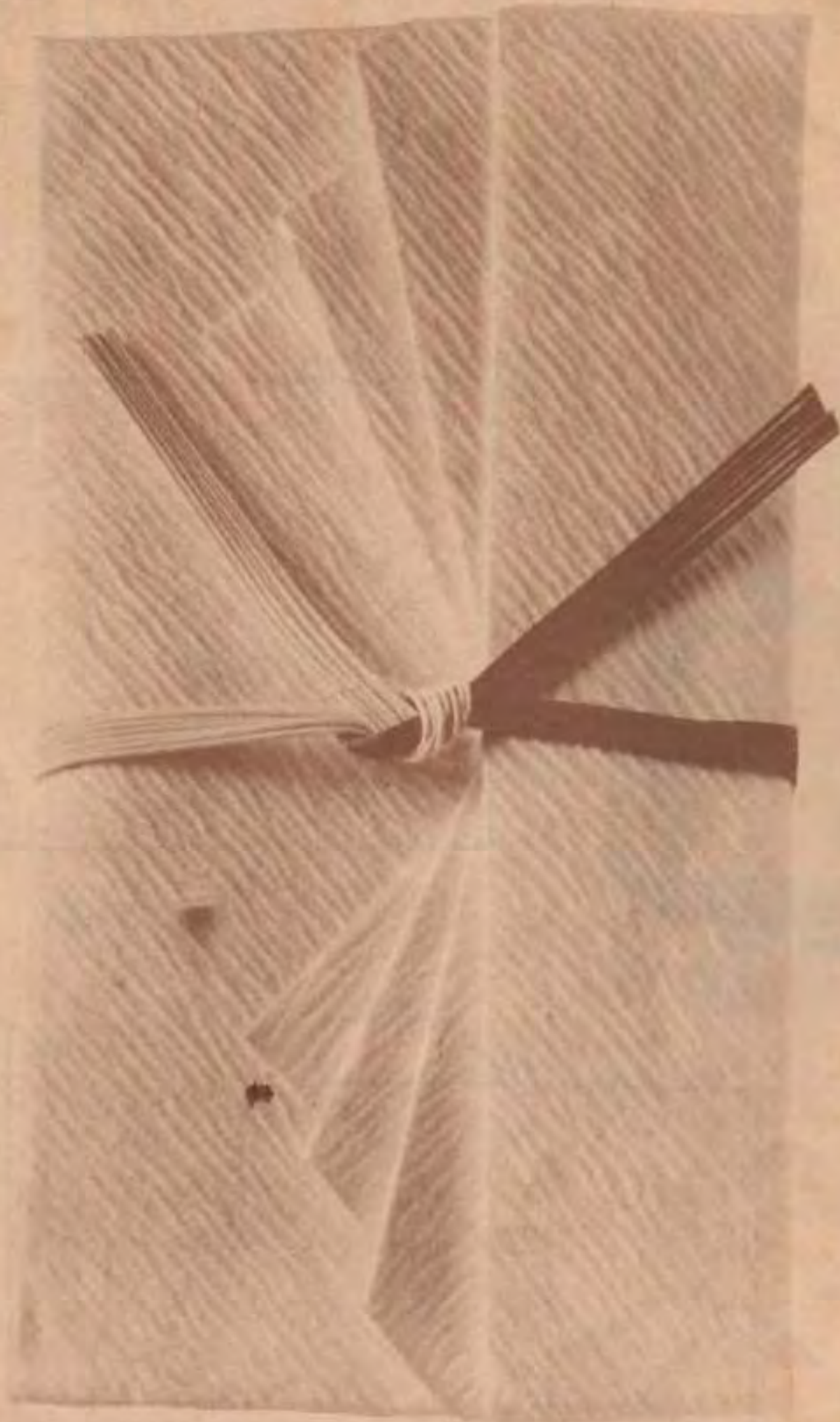


一 結婚祝紙幣包み

厳かな中にも華麗さのある紙幣包み

お祝いの金額は一、三、五……の奇数が吉です。お祝いの額が多くなれば、水引の数も七、九本と増やして結び切りに結びます。



折形とは

「折形」とは、昔から日本にある「礼法」の一つで、「もの」を和紙で包む、包み方の方式のことです。

最近では、市販されている通称「のし袋」に自分の氏名を書き、その裏か内包みに金額を記入して持参する方、また物品はデパートから直接相手方に贈る方がほとんどのようです。相手方を敬い、その間柄を大切にするために、「こころ」をお金や物品の「かたち」にして表現するのが「礼」であり「礼法」なのです。謙虚な気持ちで折り目正しく折り上げた包みで贈進したいものです。

お金はまず、和紙で小さめに包みます。これを内包みといい、さらに大きめの上質和紙で包み上げるものを、表包みといいます。折形の種類によって、紙はヨコ使い、タテ使いと異なりますが、ともに自分に正対させるように広げ、向かって左端のほうから折り始めます。折る方にとっては折りにくい手順ですが、贈られた方が開きやすいようにという考えから生まれた、思いやりのある方式なのです。

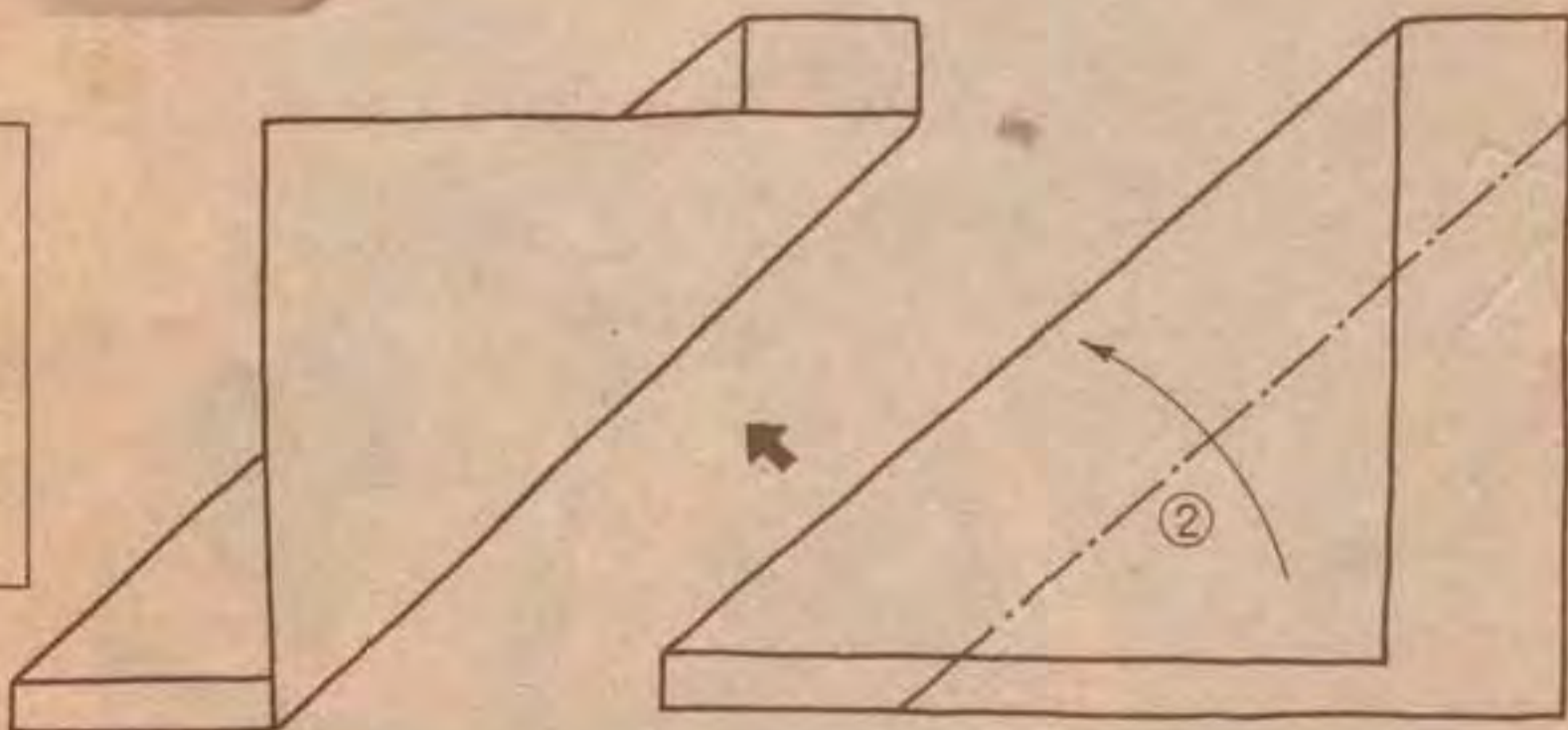
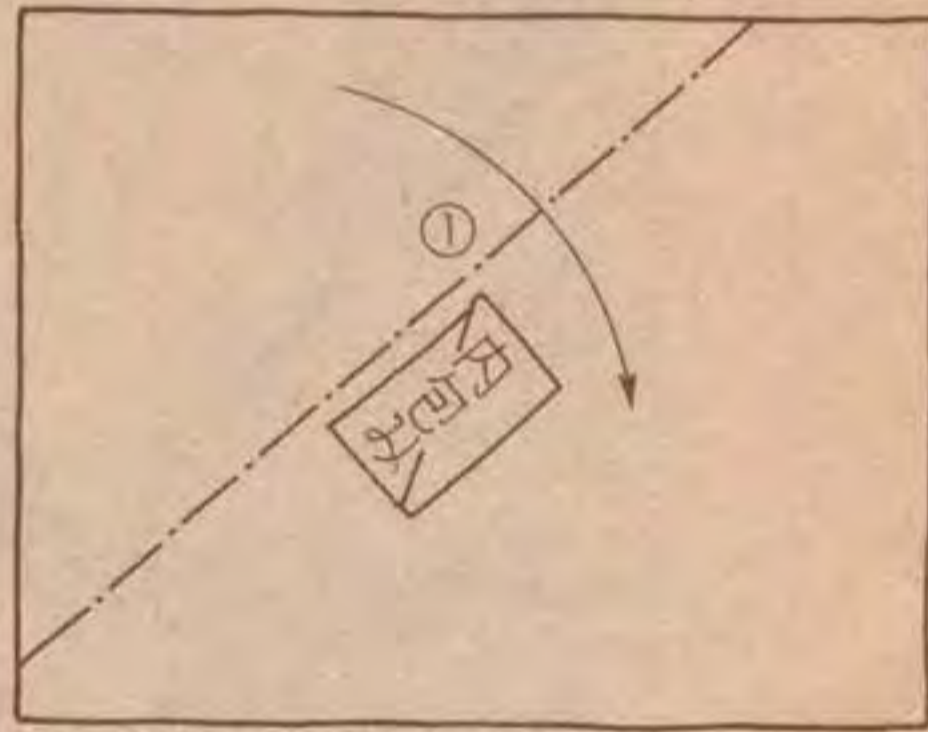
和紙は裏と裏とを合わせ、二枚重ねにして折ります。これは慶び事が重なるように折る心づかいです。従って、一度で終わってほしい結婚祝と、凶事の場合、紙は一枚だけで折ります。

折る工程中は、「切る」ことを忌み、鉋や小刀で切り込みを入れることは、一切しないで仕上げます。

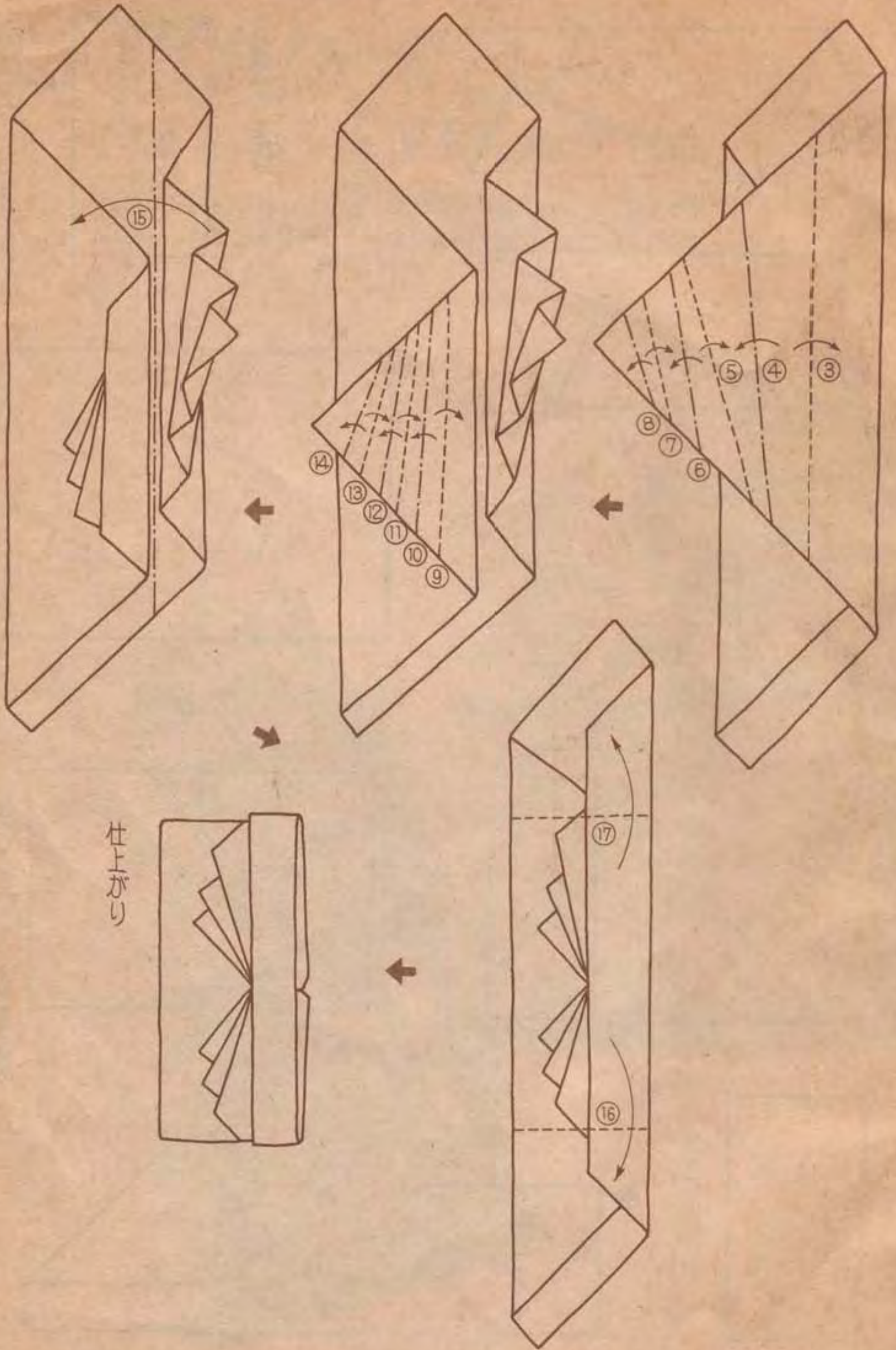
日本独自の美しさと礼法を日常生活にとり入れ、自分の手で優雅に「こころ」を折り包み、よりすばらしい人間関係を保ち続けていきたいものです。

結婚祝紙幣包み、表包み

小高摺紙を使う場合



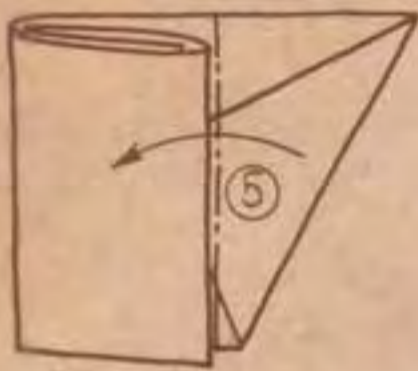
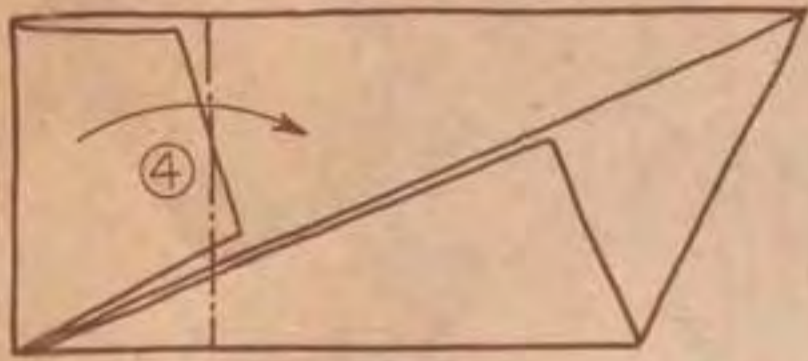
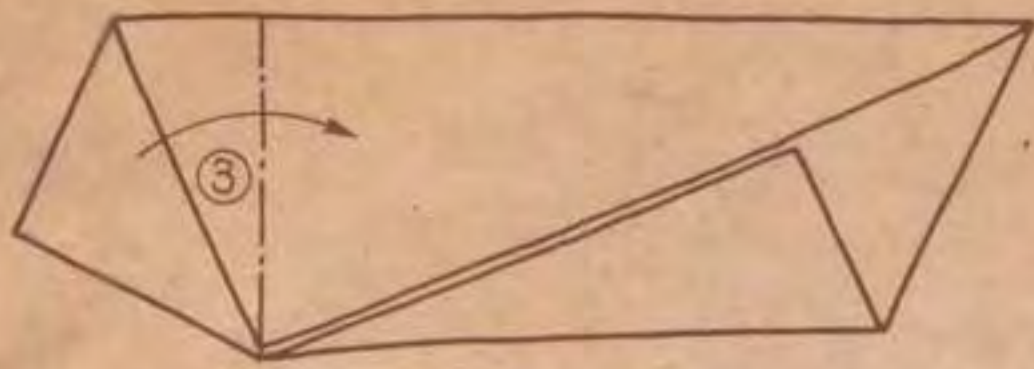
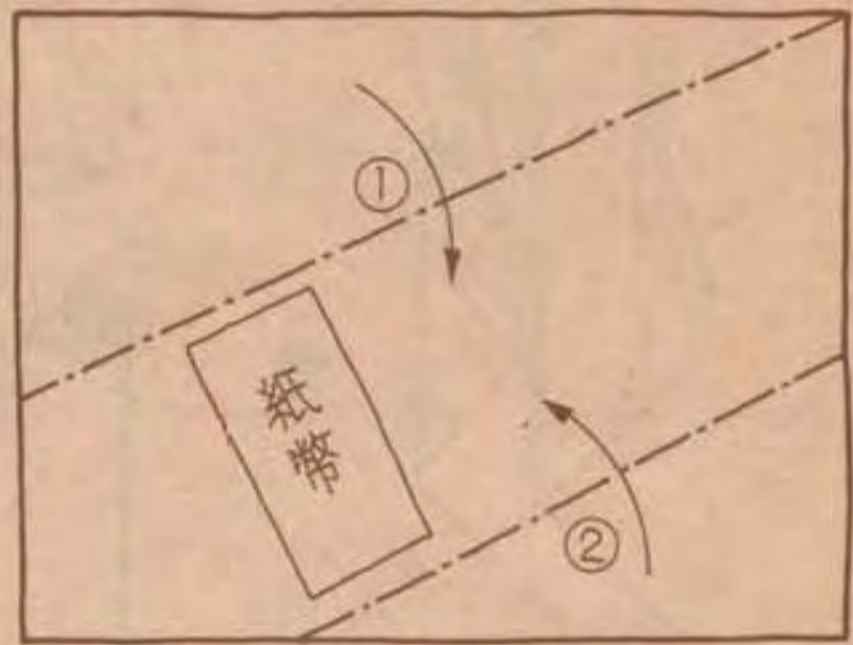
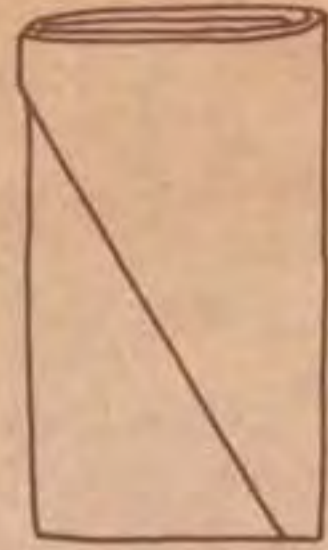
山線
— — — — —
谷線
- - - - -



内包み(一)

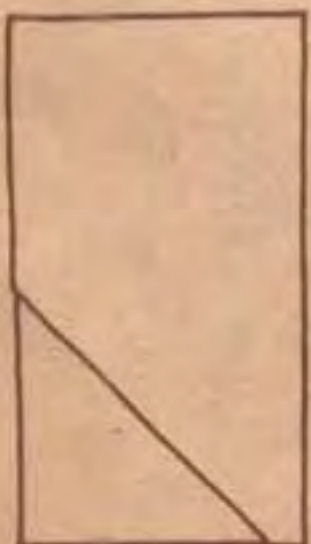
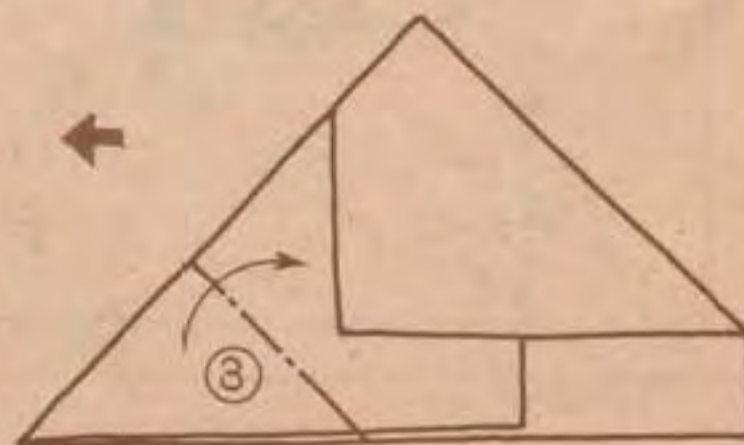
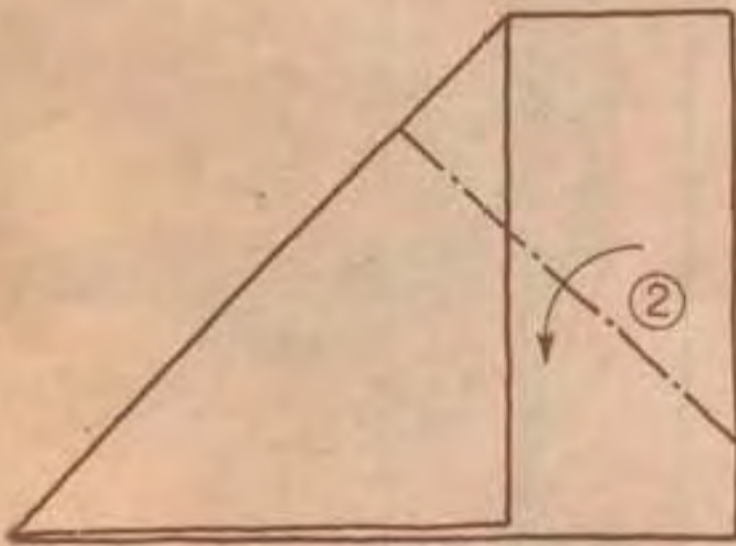
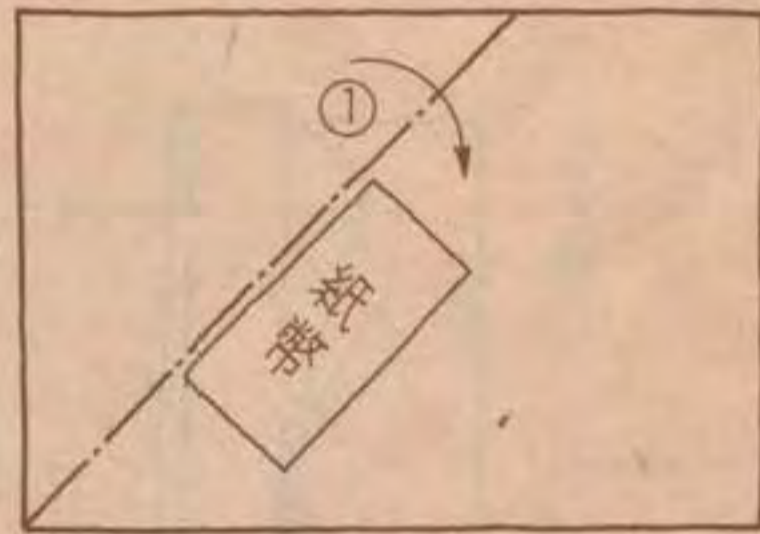
糊入れを使う場合

吉の仕上がり



内包み(二)

半紙を使う場合



吉の仕上がり